

やすぎ
だいすき

安来ふるさと読本 小学校高学年用
(4~6年)

ふるさと発見！

学ぼう 安来



島根県安来市教育委員会

はじめに

豊かな自然が織りなす四季の風景と恵みの産物、様々な分野で名をはせた多くの偉人、世界に躍進する製鉄産業、神代から綿々と語り継がれている伝説や史実など、安来市はこのように数多くの「ひと・もの・こと」にあふれています。これらのすばらしい題材を通して学んでいく「ふるさと学習」を『安来学』と名付けました。そして、安来に生まれ育ち、また縁あってこの街で暮らし学ぶ機会をもったすべての子どもたちが、ふるさとを知り、学び、考えることによって、安来を愛し、郷土の発展に寄与できる人に育ってくれることを願って「安来ふるさと読本」を作成しました。この本は、すばらしい郷土への興味を高め、理解を深めていく手がかりとなるように構成しています。

この学習活動を通して、子どもたちが学び方やものの考え方を身につける探究活動に主体的・創造的に取り組む態度や地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい安来を築こうとする実践力を培っていくことをめざしています。

未来を担う子どもたちが健やかに育ち、学習を深め、高く、大きく羽ばたいていくことは、今後少子化を迎える日本にとって、重要なこととなるでしょう。かけがえのない大切な子どもたち一人一人が、この『安来学』によって、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思うようになり、そしてこのふるさとで学び育てた力を将来存分に発揮してくれることを切に願っています。

児童のみなさんへ

小学校4年生から6年生までは、「安来を学ぶ」をめあてとして、安来の自然・歴史・人々について知り、深く学ぶことができるようにこの本はつくられています。安来のさまざまな物事を学ぶために、情報の入手先などを知るための「道しるべ」の項目がかかれています。調べ方の例を参考にして、自分から進んで調べ、安来についてたくさんのことを学んでください。

目次

目次	1
わたしたちのふるさと安来市	2
① ふるさと自然を学ぼう	4
(1) 安来市の位置	
(2) 安来市の気候	
(3) 安来市の山・川・中海	
① 安来市の山について調べよう	
② 安来市の川について調べよう	
③ 中海について調べよう	
② ふるさと歴史を学ぼう	16
(1) 神話の中の安来	
(2) 古墳・寺・神社めぐり	
(3) 戦国大名「尼子氏」と山中鹿介	
③ ふるさと先人を学ぼう	29
(1) 母里藩の医師 大森家	
(2) 地域の教育に尽くした山村勉斎	
(3) 大力士・釈迦嶽雲右衛門	
(4) 水抜きトンネルを造った原重兵衛	
(5) 土地開拓に尽くした黒川羽左衛門	
学びを深めよう	34

わたしたちのふるさと安来市

◆市の鳥・花・木・魚



市の鳥「白鳥」

昭和50年代に入ってから、本格的に能義平野へ飛来するようになった。冬の風物詩となり、能義平野を縦貫する広域農道にも「白鳥」の名称が使われているなど、市民に親しみのある鳥である。冬の訪れを告げる11月ごろに飛来し、翌年の3月ごろまで、その姿を市民に楽しませてくれる。



市の花「さくら」

安来市には、「社日公園」「十神山」「太鼓の壇」「上の台」など、桜の名所が多数ある。市内のいたるところで見ることができ、桜の花の優しい色合いは、市民を和ませてくれる。安来節の歌詞にもある「社日桜」は、現在、社日公園の桜を総称しているが、実際は、明治時代まで栄華を誇ったと言われる桜の老木の名称であったとされている。



市の木「竹」

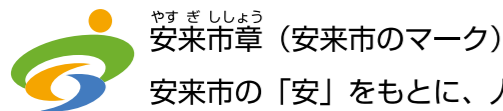
「島田たけのこ」「竹炭」など、竹に関連した特産物が多数あり市民の生活に身近なものである。「島田たけのこ」の歴史を細解くと、文化年間（1820年頃）に島田地区で孟宗竹を移植したのが始まりとされている。また、比婆山に群落する「陰陽竹」は県の天然記念物に指定されている。



市の魚「どじょう」

「安来節」のどじょう踊りに代表されるように、どじょうは昔から市民に親しみのある魚である。愛嬌のある風貌だけでなく、食せば栄養価も非常に高く、昔から「うなぎ一匹、どじょう一匹」（カルシウムはうなぎの約9倍、ビタミンB2はうなぎの約2倍）と言われるほどである。

◆市章



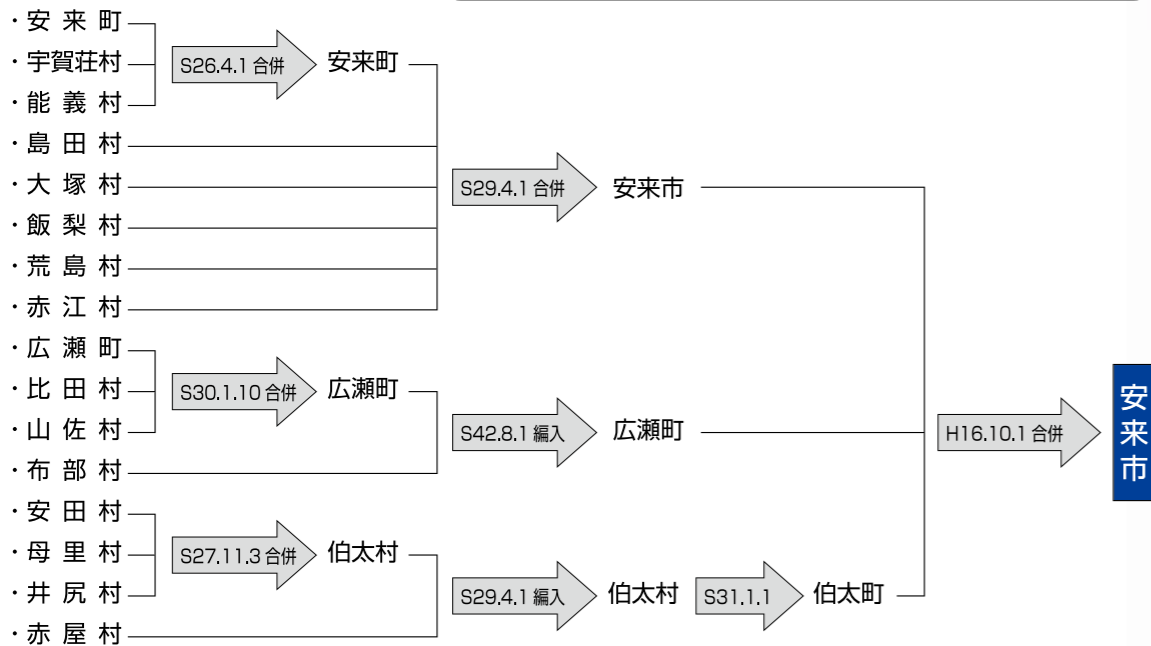
安来市の「安」をもとに、人と自然が手をとりあって、おどるすがたをあらわしています。

◇市名の由来◇
スサノオノミコトが「吾が御心は安平（やす）けく成りましぬ」といわれたことから「安来（やすぎ）」というようになったと伝えられている。（出雲国風土記より）

◇沿革◇
当地域は、古くは出雲国の東部「意宇郡」に属していたが、平安時代に仁多郡に属していた比田地域を合わせ「能義郡」として一つの行政区となった。
戦国時代には、月山富田城を本拠とする尼子氏が、陰陽11州（現中国地方）に勢力を及ぼすまでに台頭した。
江戸時代には、松江藩の支藩として広瀬藩、母里藩が置かれ、飯梨川や伯太川を利用して物資を運搬し、安来港が物資集積の積出港として栄え、和鉄や蔵米の集散地として発展した。
廃藩置県により、明治4年7月に松江県、広瀬県、母里県となり、同年11月に統合され「島根県」となった。
明治22年の市制町村制施行により、当地域は能義郡として2町14村となった。
その後、戦後の市町村合併により「安来市」「広瀬町」「伯太町」の1市2町となり、圏域市町として生活、文化など連携した施策を行いながら、平成16年10月1日、新生「安来市」として合併した。

◆市のおいたち

（一番左は明治22年4月1日の町村）



- おもな道路**
- 1 溝口伯太線
 - 9 安来伯太日南線
 - 45 安来木次線
- 構想・建設中の道路**
- 1 中海架橋/中海をまたぎ島根・鳥取をつなぐ道路建設。(構想)
 - 2 安能農道/広瀬～安来～伯太を結ぶ農道。

1 ふるさと自然を学ぼう

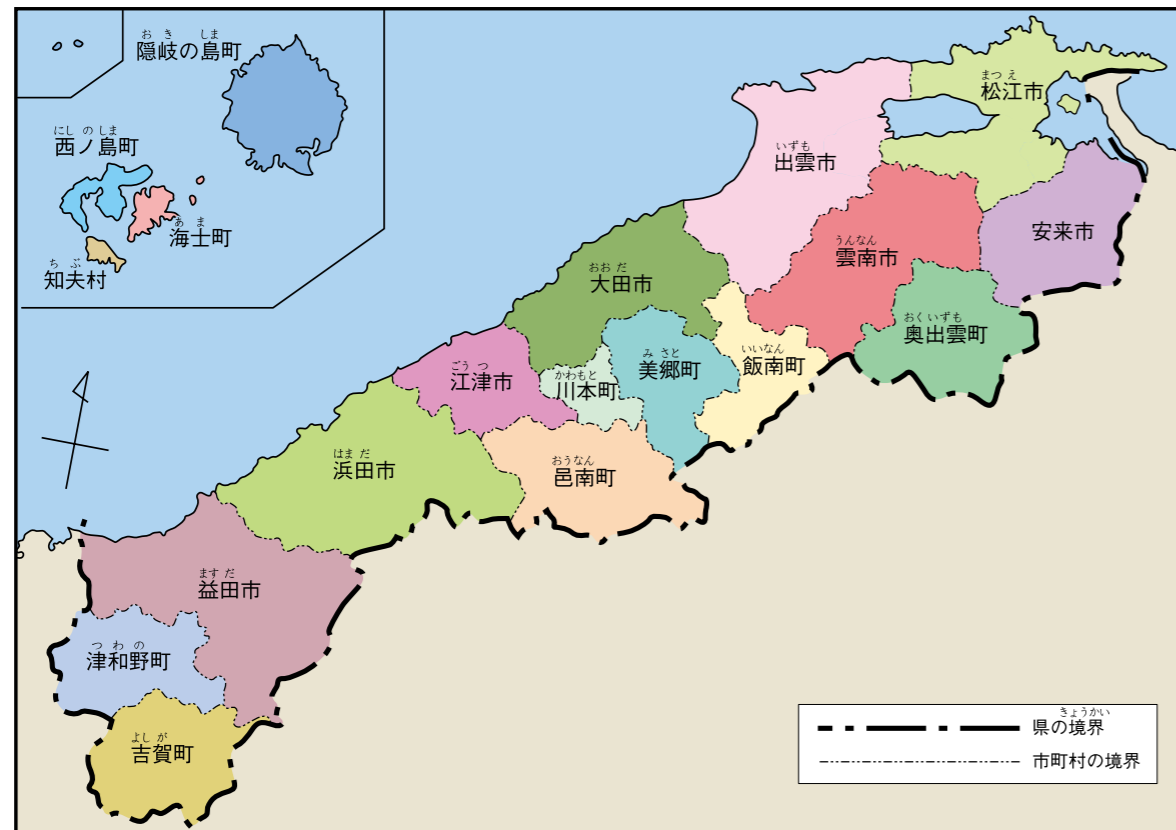
美しく豊かな自然につつまれたわたしたちのふるさと安来市。遠く古からつながる人々の暮らし。ふるさと安来の自然・産業・歴史や文化について聞いたり、見たり、調べる中で安来のよさや、そこに暮らしてきた人々の思いや願いをたくさん見つけてみましょう。

 : 安来て島根県のどのあたりにあるのかな？

 : 地図で調べてみようよ。

(1) 安来市の位置

安来市は島根県のどのあたりにありますか。下の地図をみてみましょう。



安来市は島根県の東部にあります。西は松江市、雲南市、南は奥出雲町、鳥取県日南町、東は鳥取県の米子市、南部町に接しています。南には中国山地が連なり、北は中海に接しています。南と北で土地の高低差が大きく、中海に向かって、飯梨川・伯太川・吉田川が流れています。これらの河川の下流域には、広大な平野が広がっています。

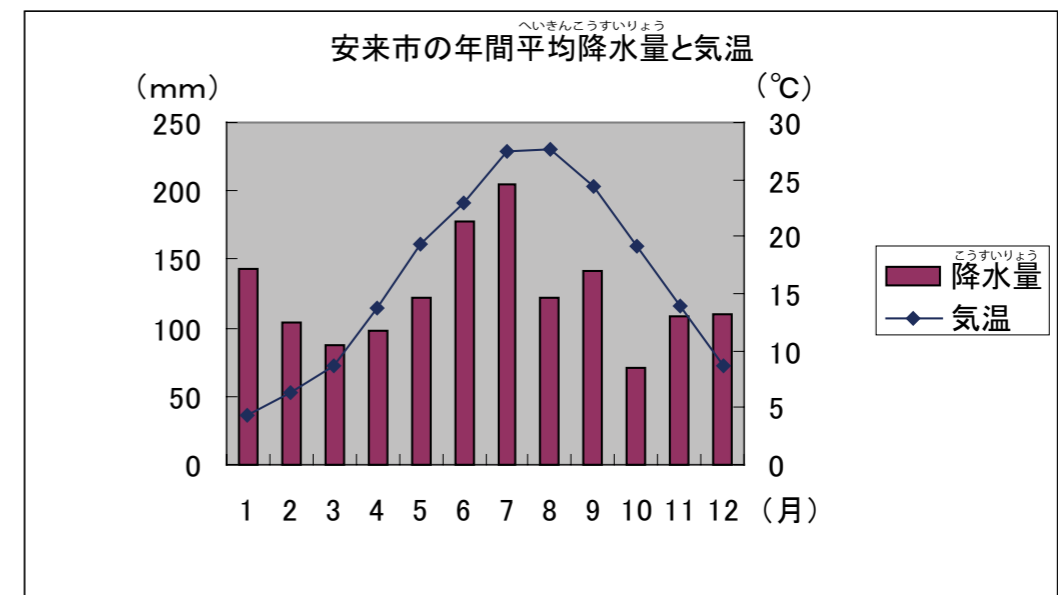
面積は420.97km²で、東西が約23km、南北が約27kmです。島根県全体(6,707.56km²)の約6.3%の広さを占めています。

 : 安来市の気候はどんな特徴があるのかな？

 : 安来市の位置や地形の様子と関係があるのかな？

(2) 安来市の気候

島根県東部の気候は、日本海型気候地域に属し、冬に雪が多い北陸型といわれています。山沿いは平野部に比べ年間平均気温が低く、冬季の降雪量が多いのが特徴です。市内の旧伯太町、旧広瀬町は豪雪地帯に指定されています。



安来市消防本部消防課資料 (2007～2011) により作成

【安来市の気温】

・安来市の気温は、例年3、4月の春頃に10℃を上回り、7、8月の夏の時期には25℃を超えます。冬の時期は1月がもっとも気温が低くなります。

【降水量について】

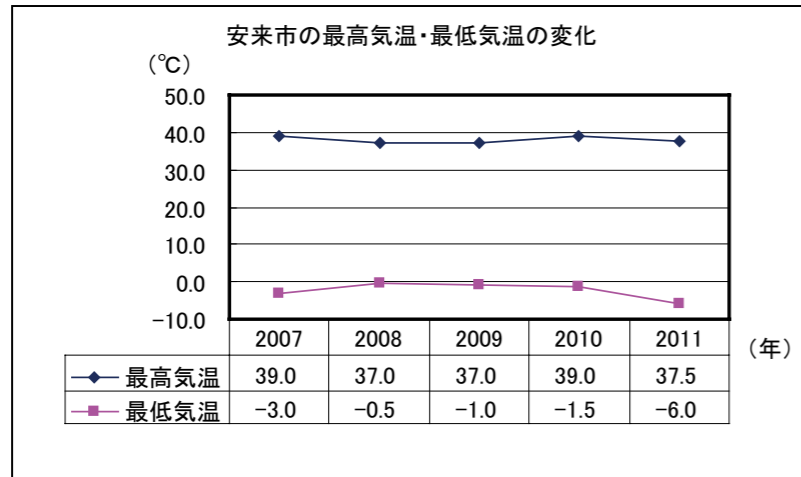
・安来市の年間降水量は約1,500mmであり、日本の平均年間降水量とほぼ同じです。1月の降水量が多いのは、降雪によるものです。

同じ安来市でも山間部と平野部では気温や積雪量も違いがあるようだね。安来市内の小学校同士で気候調べのデータ交換をしてもいいかもしれないね。



【最高気温・最低気温について】

安来市の最高気温は各年とも37℃を上回っており、猛暑日の基準である35℃を超えています。最低気温は各年とも氷点下となっており、冬型の気圧配置が続き、日本付近に断続的に強い寒気が流れ込むと最低気温が低くなる傾向にあります。



(安来市消防本部消防課資料により作成)

(3) 安来市の山・川・中海

安来市の南部には中国山地が連なり、空から降った雨や雪は豊富な森林に蓄えられます。豊かな水は小さな支流に流れ込み、やがて大きな川になり市内を流れ、中海、日本海へと流れていきます。

①安来市の山について調べよう

ねえねえ。安来市にある山で一番高い山は何メートルあるか知ってる？

そうだ！安来市にある山の高さランキングを作ってみようよ。

高さ【標高】ランキング

- 第1位…猿隠山：816.9m (比田)
- 第2位…三郡山：806.0m (比田)
- 第3位…鷹入山：706.1m (赤屋)

安来市のおもな山



いろいろな名前の山があるね。どうしてそんな名前がついたんだろう。



○猿隠山 (さるがくれやま)

- ・安来市で最も標高が高く、鳥取県との県境にあります。
- ・猿隠山の名前の由来はいろいろな説があり、村人を苦しめている化生(化け物)を退治するために山に登った時に猿が案内をしてくれたという話から猿隠山となったという話などが伝えられています。



夏の猿隠山

Let's read! 広報やすぎ「どげなかね」平成23年8月号「猿隠山の化け物退治」

○三郡山 (さんぐんざん)

- ・三郡山の名前の由来は、文字通り、仁多郡(奥出雲)、旧大原郡(今の雲南市)、旧能義郡(今の安来市)の三つの郡の境にある山という意味です。三郡山は安来市で2番目に標高の高い山です。平成24年度には三郡山のふもとの山佐、比田、久野、亀嵩、高田の小学校の3、4年生が頂上に集まり、二年に一度の三郡山サミットを開きました。

3つの郡の境目にあるからなんだね。



三郡山登山の様子



三郡山からのながめ

○鷹入山（たかいりやま）

- ・鳥取県との県境にある分水嶺の山です。
- ・山の中腹には島根名水百選に選定されている鷹入の滝があります。



鷹入山の地図と鷹入の滝

島根でも有名な水なんだね。



鷹入の滝

【その他の山】

○京羅木山：473.0m

- ・島根県松江市と安来市との境にあります。
- ・『出雲国風土記』では『高野山』と呼ばれており、頂上からは大山、中海、宍道湖などが見えます。



京羅木山から中海をのぞむ

すてきなながめだね。登ってみたいね。



京羅木山から広瀬の町をのぞむ

○要害山：281.2m

- ・島根県側では「安田要害山」、鳥取県側では「新山要害山」と呼ばれています。
- ・古代には、のろしのあげ場であったといわれ、中世には長台寺城が築かれていました。



「のろし」って何か知っているかね。

「のろし」

のろしとは山や丘などの高いところで物を燃やして煙や火を出し、遠くの人に情報を伝える方法です。リレー方式で伝える距離を伸ばすこともできます。敵が攻めてきたことをいち早く知らせるなど、古くから戦のときなどに多く使われました。

○月山：183.8m

- ・広瀬町にあり、かつては山城である富田城が築かれた山です。
- ・富田城は江戸時代初めに松江城が完成するまでは、出雲国の中心のお城でした。



広瀬の町から月山をのぞむ

富田城にはどんな武将がすんでいたのかな。広瀬町にはお城にまつわる資料がたくさん残されているよ。



とかがみやま
○十神山：92.9m

- 『出雲国風土記』では砥神嶋と記されており、島であったことがわかります。十柱(神様は柱と数えられることが多くあります)の神々をまつたことからその名が由来するともいわれています。
- 対岸から見る十神山はとても美しく、安来節の中にも『安来千軒 名の出たところ 社日桜に十神山』とその美しさが歌い継がれています。



十神山をのぞむ

とかがみやま ぼくらまごさぶ
十神山の木は、ト蔵孫三郎が自費で植えたという記録があるよ「安来市誌」を調べてみよう。



山についていろんなことがわかったね。

今度は安来市を流れる3つの大きな川についても知りたいね。

②安来市の川について調べよう

安来市には飯梨川・吉田川・伯太川の3つの一級河川が流れています。長さや水源地などそれぞれの川について調べてみましょう。

※一級河川：国土交通省が管理する国土保
上、国民経済上、特に重要な河川

川の長さランキング

第1位…飯梨川：39km

第2位…伯太川：28km

第3位…吉田川：14km

どの川も南から北に流れているね。



いいなし
○飯梨川

安来市南部の奥出雲町との境にある玉峰山が水源で全長が約39km、流域面積は約208km²です。広瀬では富田川とも呼ばれています、天井川で大雨が降ると洪水となり、何度も氾濫しました。上流に布部ダムと山佐ダム(山佐川)が建設され、利水や治水に役立っています。また下流部は広大な三角州が形成され園芸農業が盛んに行われています。



飯梨川の新宮橋付近



何度も洪水があったんだね。布部ダムや山佐ダムはいつごろできたのかな。

流域面積

雨や雪が降って、その川に流れ込む水が集まってくる範囲の広さ。

ふべ
布部ダム

布部ダムは昭和42年に建設され、流砂・洪水防止、発電・工業用水、飲料水の利用を目的とした多目的のダムです。総貯水量710万m³、堰堤の高さが55.9m、幅が190mあります。周辺は公園として整備されています。ダムの真ん中に浮かぶ中ノ島にはつり橋「白樺大橋」がかかっています。このつり橋は幅が2m、長さが128mもあります。



中ノ島にかかる白樺大橋

やまさ
山佐ダム

山佐ダムは昭和55年に建設され、多目的ダムとして洪水防止や安来市・松江市に飲料水を供給しています。総貯水量505万m³、堰堤の高さが56.0m、幅が220mあります。周辺には食堂やそば打ち体験道場、キャンプ場やコテージなどの施設が整備されています。自然を味わいながら家族や友だちと楽しいひと時が過ごせるよう工夫されています。



山佐ダムの堰堤

○伯太川

その昔は「伯太川（はだがわ）」
 「畠川（はだがわ）」「井尻川」と呼
 ばれていたこともあります。伯太町草
 野の水木原が水源で、伯太町赤屋で
 小竹川、井尻で福留川と合流し、伯太
 町母里より下流では、ほぼ直線状に
 なって市内を流れ、中海に注ぎます。全長が約28km、流域面積は約90km²です。



流れている場所でいろいろ
 な呼び方があったんだね。

○吉田川

上吉田町と広瀬町・伯太町の
 境界付近の大光寺上流の谷が水源で
 す。折坂町で大きく左に流れが変わり
 西にむけて流れ、東切川あたりでふた
 たび右に流れが変わり、切川町あたり
 から伯太川と平行に進みながら中海に
 注ぎます。全長が約14km、流域面積は
 約42km²です。

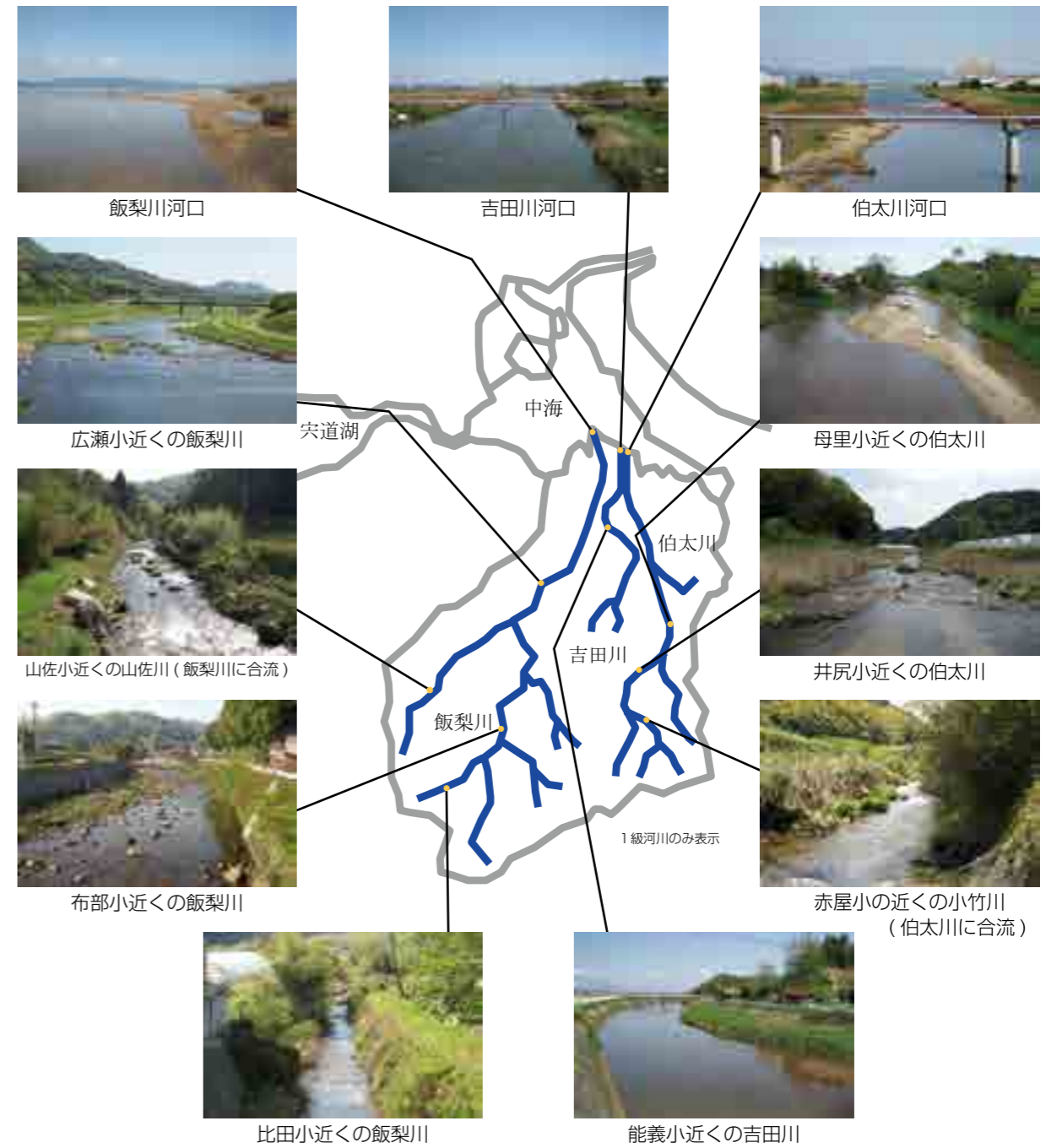


吉田川には昔ながらの木で造
 られた橋が3つかかっています。どのあたりに、どんな橋
 がかかっているか地図や実際
 に行って調べてみましょう。


木でできた橋、
 わた渡ってみたいな。




それぞれの川にはどんな生き物がすんでいるのかな。上流、中
 流、下流ですんでいる生き物に違いがあるのかな。(調べ方：島
 根県HP→水産技術センター→島根の川と湖→川はともだち)



③ 中海について調べよう

 **：日本地図を見ると湖はいくつかあるけれど中海は日本で何番目の大きさなのかな？**

 **：中海は海ともつながっているけど水はどんな味がするんだろう？**



【中海の位置】

中海は中国山地を水源とする一級河川の斐伊川水系の下流部にあたり島根県の東部と鳥取県西部に接する湖です。面積は86.8km²、周りの長さが105km、平均の深さが5.4m、日本で5番目に大きい湖です。大橋川で宍道湖とつながり、境水道で日本海とつながっており、海の水の約半分の濃さを持つ湖（汽水湖）です。中海を取り巻く市は安来市、松江市、境港市、米子市の4市があります。湖の中には松江市に属する大根島と江島、安来市に属する亀島があります。



【中海と人々の生活】

その昔は中海の藻を刈り取って農作物の肥料にしたり、赤貝の養殖が栄えたりした時期もありました。昭和38年食糧の増産と農業用水の確保を目的として中海の干拓と淡水化事業が始まりました。しかし、その後の社会情勢の変化により干拓・淡水化の事業は中止となりました。中海で漁業を営む人は年々減少しています。



昭和34年干拓前の門生町



平成23年干拓された門生町



サンドポンプによる中海の干拓



平成2年中海で行なわれた島田地区第1回いかだレース

中海は古くから人々の生活に大きくかかわっていたんだよ。



【中海の生きもの・植物】

海水と淡水が混ざり合う中海では海の生きものと川の生きものを見ることができます。また、これらを餌とするたくさんの鳥がいます。シギ・チドリの仲間など、約260種の鳥類の生息が確認されています。冬になると毎年75,000羽以上のガン・カモの仲間が飛来します。中海一帯はコハクチョウの集団渡来地の南限といわれています。また汽水性の水生植物としてリュウノヒゲモ・カワモツルモ・コアマモなど貴重な植物も多く見られます。この貴重な環境を守ることを目的として中海は2005年にラムサール条約に登録されました。



中海にはいろんな生き物があるんだね。

調べてみよう

- ラムサール条約について
(参考：環境省のホームページ <http://www.env.go.jp/mail.html>)
- 中海の生物について調べてみよう。
(日本シジミ研究所編「宍道湖と中海の魚たち」山陰中央新報社)
(「ゴビウスと水の生きものたちのガイドブック」島根県立宍道湖自然館ゴビウス)



2 ふるさとの歴史を学ぼう

(1) 神話の中の安来



：ねえねえ、安来という地名はどうやってついたか知ってる？



：たしか「わくわくドキドキ やすぎ」(安来ふるさと読本 小学校1～3年生用)の「エッサ先生のやすぎメモ」に書いてあったわよ。

◆「安来」という地名



日本神話に登場する神様「スサノオ」は、「古事記」によると、手が付けられないほどの暴れん坊だったとか。その乱暴ぶりに我慢ができなくなったアマテラスという神様は、怒って閉じこもってしまったというありさま。困り果てた神様たちによってスサノオは、とうとう天界から追い出されてしまいました。

出雲の斐伊川上流に降り立ったスサノオは、人々を苦しめる恐ろしいヤマタノオロチを退治するなど、みんなの役に立つ活躍をしました。荒々しい性格を改めたスサノオを、人々はありがたい神様として慕いました。

その後、多くの国を旅したスサノオが、ある所に立ち寄った時のこと、「私の心は安らかになった」と言ったそうです。この一言がきっかけで、その地は「安来」と呼ばれるようになりました。『出雲国風土記』に伝えられているお話です。



：へえ、そうだったのか。



：日本で一番古い歴史の本「古事記」には、出雲地方にまつわる神話や伝説がたくさん書かれているわよ。わたしたちのふるさと安来にかかわる話もあるんだって。

◆イザナギとイザナミ ～国生み神話～

昔むかし、この世が初めてできたころのこと。高天原という天空に浮かぶ世界に、初めて神様が姿を現しました。高天原には次々にたくさんの神が姿を現し、最後に現れたのが男の神「イザナギ」と、女の神「イザナミ」でした。

「イザナギ」と「イザナミ」は神様たちに「この海に漂っている国をしっかりと固めなさい」と言われ、立派な矛を授けられ国づくりを任せられました。二人は高天原から地上に架かる天の浮橋までやって来ると、矛を指しおろし「コオロ、コオロ」と海をかき回して引き上げてみました。すると、矛の先からしたたり落ちた滴が重なり、オノゴロ島という島ができました。こうして地上に初めて陸地が誕生したのです。



オノゴロ島に降り立った二人は、結婚をし、国づくりを始めました。二人の間に淡路島が生まれ、さらに、四国・隠岐の島・九州・壱岐・対馬・佐渡島・本州と次々に島を生み、日本の国はできていったのです。

◆神生み神話と比婆山伝説

国ができると、次に二人は神々を生むことにしました。やがて、土の神・海の神・風の神・山の神・船の神・食べ物の神など、様々な神を生みましたが、火の神カグツチが生まれたとき、悲しい出来事が起こりました。カグツチの炎でイザナミは大やけどをしてしまったのです。イザナミは傷に苦しみながらも、鉾山の神などを生みましたが、ついに命を落としてしまいました。

愛する妻を失ったイザナギはとても悲しみ、イザナミの前で大声を出して泣きました。このときに流れた涙から泉の神が生まれました。その後、イザナギはイザナミを出雲の国と伯耆の国の境にある比婆の山に埋葬しましたが、イザナギの悲しみはますます深くなるばかり。悲しみに耐えきれなくなったイザナギは、腰にあった剣でカグツチを切っていました。すると、そこから刀剣の神タケミカヅチなどの神が生まれてくるのでした。

しばらくたったある日のこと。イザナミのことが忘れられないイザナギは、ひと目だけでもいいからイザナミに会いたいと思い、死者が住んでいる黄泉の国というところに向かうことにしました。



：比婆山、行ったことがあるよ。神様が眠る山だったんだね。



：私は、めずらしい竹(陰陽竹)を見たよ。

あらエッサくんの ふるさと発見！コーナー

《 陰陽竹伝説 》

伊邪那美之命が黄泉の国に旅立たれる道すがら、母里井戸の地で清水で身を清められ、竹の杖をもたれて比婆山中腹にあるコガケ（伊邪那美之命の腰掛けられた岩の伝承があり、地名になっています）で休息され、その杖を地面に立てて黄泉国へ旅立たれました。その時立てて置かれた竹の杖が芽を吹き、根付いたと伝える風変わりな竹が、「陰陽竹」です。幹はマダケのようで、葉は笹に似ています。



たまかかえいし 玉抱石というめずらしい石もあるよ。探してみよう。



Let's go! 「比婆山 ハイキング参拝マップ」を見て行ってみよう!

：神様と言え、能義神社にも言い伝えがあるわよ。

：能義小学校の近くにある神社だね。

◆ 能義神社と天穂日命

その昔、イザナギの子孫であるオオクニヌシノミコトが、日本の国づくりに励んでいたところのお話です。

高天原（神様たちが住む天上界）を治めるアマテラスという神様は、地上がめまぐるしく変わっていく様子を見て、「なんたる下界の混乱ぶりだ。こうなれば私の子孫に地上を治めさせよう」と、オオクニヌシに国を譲るよう使者を向かわせました。この使者こそが、アマテラスの2番目の子どもで、現在、能義神社に祭られているアメノホヒノミコトです。

オオクニヌシに会うため、アメノホヒは地上に降りました。そして、現在の能義平野がある辺りに着いたとき、そこで見た光景にとっても驚きました。高天原で聞いていた話とは違い、人々は争いもせず、幸せそうに暮らしていたからです。これは、オオクニヌシが、この地方で農耕を教えたり、薬の調合や医療を伝授したりするなど、人々の生活を豊かに



するために頑張ったたまものでした。

「オオクニヌシはたいそう立派な人物ではないか。彼のつくる国とやらを見てみたいものだ。よし、私も彼の手助けをしよう。」アメノホヒはすっかりオオクニヌシのことを気に入り、一緒に国づくりをすることに決めたのです。

オオクニヌシを気に入ったアメノホヒは、ともに能義平野で国づくりを始めることにしました。アメノホヒは農業の神、とりわけ稲穂の神でもありましたから、特に稲作の発展に力を注ぎました。そして、人々もアメノホヒを慕って熱心に働いたことで、この広大な平野は秋になると一面に稲穂がゆれる黄金の大地となったのです。

このようにして長い年月をかけて無事に国づくりを終えたオオクニヌシは、豊かになった地上を高天原の神々に譲り、出雲大社へ隠居しました。

しかし、アメノホヒはこの地にとどまり、オオクニヌシに代わって、さらに産業の発展に尽くすのでした。人々は大変感謝し、「野城大神」とたたえるとともに、野城社（現在の能義神社）に祭って、いつまでも親しまれています。



あらエッサくんの ふるさと発見！コーナー


《 出雲四大神 》


出雲国風土記には多くの神様が登場しますが、大神と名がつくのは、野城大神のほかに杵築大神（オオクニヌシ）、佐太大神、熊野大神だけです。この4柱は「出雲四大神」と呼ばれており、昔から特別な神であったと考えられています。

日本最古の歴史書『古事記』には、さまざまな神話のついでに、遠い遠い昔の神がみの世界をのぞいてみましょう。

Let's read! 「イラスト図解 古事記—神がみの物語」(PHP研究所) 「ふるさと読本 いづも神話」(島根県教育委員会)



 : 月の輪祭りに行ったことある？

 : 8月14日～17日にある祭りね。この祭りの始まりは…

◆比売埼の鰐伝説～月の輪祭りの始まり～

十神山の北の海岸に比売埼というところがあります。この郷の語臣猪麻呂の娘がこの埼を散歩していました。すると突然、思いもかけず鰐（シュモクザメ）に襲われ、咬みつかれてついに死んでしまいました。

父猪麻呂は殺された娘を海岸に埋葬しておき、とても悔しく、腹立たしく思い、夜となく昼となく悩み苦しんで娘が眠っている場所を去らないでいました。

数日たち嘆き悲しむ心を励まして、矢先を磨き、鋒先を鋭くし、海岸に行って座り込み神々を拝み心情を訴えました。

すると、しばらくして鰐が百匹あまり、静かに一匹の鰐を取り囲んでおもむろに連れ寄ってきました。その鰐は、猪麻呂のいるところからはじっと動かず囲んでいるだけでした。

そこで猪麻呂は、持ってきた鉾を振り上げて真ん中にある鰐を刺し殺して捕らえました。それが終わると百あまりの鰐は、囲みを解いていずこともなく散っていきました。猪麻呂が鰐を切り割くと娘の脛があったということです。

このお話がもとになり、江戸時代まで娘の墓と伝えられている毘売塚古墳の近くで村の人の手で弔いが続いていた。その弔いが江戸時代に続いておこった日照りなどの災害や伝染病などを鎮める祈願のまつり・幸せを願うまつり「月の輪まつり」として発展したと伝えられています。



娘の墓と伝えられている
毘売塚古墳




たくさんの人でにぎわう月の輪祭り


月の輪祭りについて、わかりやすく書いてあるので読んでみよう。



Let's read! 『まんがで読む 出雲国風土記～月の輪伝承～エンヤ エンヤ』（安来ふるさと歴史研究会）

(2) 古墳・寺・神社めぐり

 : 毘売塚古墳の他にも、安来には古墳がたくさんあるらしいね。

 : そうよ。「わくわく ドキドキ やすぎ」の荒島さんぽに古墳がのっていたわ。

古代出雲王陵の丘（荒島古墳群）



※荒島墳墓群ガイドマップ 『古代出雲 王陵の丘』（安来市教育委員会）

◆仲仙寺・宮山 墳墓群

弥生時代の後期、荒島地域には、四隅がヒトデのように飛び出した特異な形の墳丘墓が集中して造られました。

この地域の墳丘墓は、墳丘の斜面から裾にかけて石を貼り、石の列で溝をめぐらすなどそれまでの安来平野の墳丘墓には見られない特色のある墳墓です。



宮山4号墓

このような形の墳丘墓は、安来に突然現れて、前期古墳（大型の四角い形をした古墳）が造られる時代には、その姿を消してしまいます。

◆おおなりこふん 大成古墳

安来市立荒島小学校とJR山陰線荒島駅の間を結ぶ線の上にある東西に走る丘陵の上に



存在する大成古墳は、古墳時代前期の方墳としては、日本最大級の規模です。墳丘の中心部には、ヤマト王権を象徴する前方後円墳に採用されている竪穴式石室、副葬品には、一級品といえる鏡と大刀が納められていました。



いいなし : 飯梨さんぽに岩舟古墳ものっていたよ。



ほくも : ぼくも写真を見たよ。どんな古墳なんだろう。

◆いいなしいわふねこふん 飯梨岩舟古墳

飯梨川の西にある車山の丘陵の端にあります。墳丘は、かつて覆われていた土の大部分が失われ、石室がむき出しになっています。

石室は、「石棺式石室」で最も形が整ったものといわれています。昭和23年に国指定史跡となりました。



「石棺式石室」の特徴は、3つあります。

- ①石を板状に加工して組み合わせる。
- ②土で隠れてしまうはずの天井を屋根形に加工する。
- ③入口は、くりぬいて造っている。

この特徴は、出雲国でも東部地域の首長たちが好んで採用したもので他の地域には見られないものです。

市内では、「塩津神社古墳（久白町）」、「若塚古墳（久白町）」、「飯梨穴神古墳（飯梨町）」の4箇所では確認されていません。全て安来平野を流れる飯梨川の西側に単独で造られています。

6年生では社会科で古墳の学習をするね。
安来市以外にも出雲地方には有名な古墳がたくさん見つかっています。興味がある人は、調べてみましょう。



Let's read! 「もっと知りたい しまねの歴史」(島根県教育委員会)
3 王墓 出現! 5 古墳に眠るしまねの王たち



きよみずでら : 京都の清水寺は有名だけど、安来の清水寺も知ってる?



ほくも : もちろん! 秋の紅葉がきれいだね。

◆きよみずでら 清水寺

清水寺は、清水町にある天台宗系のお寺です。587年に尊隆上人により開かれました。上人が山の上を掘ると清水がわき出しました。このことから清水寺という名前がついたと言われています。今でも、本堂の中にある井戸には水がわき出ています。



山陰唯一の三重塔の登閣



ご本尊は、十一面観音様をお祀りしています。ご祈祷するお寺として厄払いの観音様として崇められ、毎年厄年に当たる人たちを中心に信仰を集めています。

戦国時代には、尼子と毛利の戦に巻き込まれ毛利軍に焼打ちにあい、根本堂を除いて全焼してしまいました。その後は毛利家の保護を受け、江戸時代

に入ると松江藩主松平家に代々守られ今のように再興されました。

また、1400年余りの歴史と伝統の中で阿弥陀如来坐像、阿弥陀三尊坐像など国の重要文化財4件、県の指定文化財7件などたくさんの文化財をもっています。

山陰唯一の三重塔は、総檜造りで展望台的な性格をもっているのが特徴的で、計画から約100年、安政6年（1869年）に大工三代にわたり建造にかかわった末、完成しました。

あらエッサくんの ふるさと発見！コーナー

《 清水寺の絵馬 》

400年も昔のお話です。綱につながれた一頭の馬を描いた絵馬が、清水寺に奉納されました。

ふもとの里で、村人たちを困らせる騒動が起こったのも、ちょうどそのころ。丹誠込めた作物が、夜な夜な荒らされるようになったのです。「誰の仕業か突き止めてやろう」。村人たちは毎晩、寝ずの番をすることにしました。

ある夜、見張りをしていると一頭の馬が現れ、田畑で大暴れをしました。「逃してなるものか」。必至に後を追うと、馬は清水寺本堂の中へ。ところが、中のどこを探しても馬の姿は見当たりません。「確かにここに入ったはずだが」。村人は首をかじげ、



ふと絵馬を見て驚きました。その絵は、先ほどの馬にそっくりではありませんか。

これを聞いた和尚は筆を取り出し、馬をつなぐ綱をもう一本、絵馬に書き足しました。すると、不思議なことに、その日を境に田畑が荒らされることはなくなりました。

絵馬は、今も清水寺本堂内に掛けられています。今にも動き出しそうなほど、生き生きと描かれた馬を、ぜひ見てみよう。



：宇賀荘小校区には、もう一つ有名な寺があるね。



：雲樹寺のことね。国の重要文化財がたくさんあるらしいよ。

◆ 雲樹寺

正中2年（1325年）、当時の領主牧新左衛門が孤峰覚明（三光国師）を招いて開いたのが始まりと伝えられています。

その後、後醍醐天皇の勅願寺（天皇に大切にされたお寺）となりました。

天皇の勅願寺として寺運が隆盛し、山陰随一の禅寺として名声を誇り、最盛期には境内に七つの建物が建ち並び、塔頭（お寺の住職）は20余人、他に500人余りの僧が居住していたそうです。1820年（文政3年）の火災により四脚門以外の建物が焼失し、その後山門、仏殿、万丈、開山堂等が再建されました。



◆ 雲樹寺の文化財

松並木の参道を通り境内に入ると、まず四脚門（大門、国の重要文化財）が見えてきます。昭和9年に大改修され、古材は境内に保存されています。

寺内には県内でも数少ない朝鮮鐘（国の重要文化財）など多くの文化財が残っています。



しきやくもん
四脚門



朝鮮鐘
飛雲に舞う二人の天女

：比田小学校の近くには、**金屋子神社**があるよ。

：現在も**製鉄・冶金**関係者が多く**参拝**しているそうよ。

◆**金屋子神社** ～たたら製鉄～

広瀬地区及び伯太地区は、質の良い砂鉄と炭焼きに適した豊富な森林資源に恵まれ、古くからたたら製鉄が行われた地域です。飯梨川をさかのぼると、山佐川筋では、上山佐の幸谷、布部川筋では、布部の樋の廻、西比田の市原にたたらがもうけられていました。また、伯太川上流でも峠之内、上・下小竹、赤屋、上・下十年畑、草野などで鉄穴流しが行われていました。

鉄穴流しにより得られた上質な砂鉄から、たたら製鉄を行いました。できあがった鉄の運搬には、古くから鉄の大消費・集散地が大阪であったため出雲街道四十曲峠を越す陸送よりも、安来・米子から西回りで瀬戸内を通る海上輸送が多く使われました。

製鉄神として敬い尊ばれてきた金屋子神は、播磨国から白鷺にのって西比田の金屋子神社境内のかつらの木に降り立ち、製鉄の技を伝えたと言われています。



たたらに従事する人々をはじめ、鍛冶・鋳物師、あるいは、鉄を商う人々は深い信仰心を持ち、春と秋の大祭には、遠くからもお参りに訪れています。

かつて日本で屈指のたたら製鉄地帯であった中国山地。この地方はアニメ『もののけ姫』の舞台となっています。



Let's read! 『**神話の里安来 女神物語り**』鉄づくりの女神 **金屋子神**
(安来市観光協会パンフレット)

(3) **戦国大名「尼子氏」と山中鹿介**

：広瀬には、**富田城**という有名な城があったそうだね。

：その城を本拠地としていたのが、**尼子氏**という**戦国大名**よ。

◆**尼子氏の拠点 月山富田城**



月山富田城は、中海に注ぐ飯梨川(富田川)の川岸にある標高約190mの月山に築かれた山城です。城の中に入るには、菅谷や塩谷などの細長い谷を通る必要がありますが、谷を左右から見下ろす丘の上には無数の陣地が造られているため、簡単には城内に攻め込むことができず、まさに難攻不落の城でした。

この城は伝説上では平安時代末期に築城されたとされていますが、尼子氏が城主であった戦国時代に最も規模が大きくなったと考えられています。尼子氏が滅亡した後、城主となった毛利、吉川、堀尾氏の各時代には石垣が築かれるなどのさまざまな改造が行われており、月山山頂の「本丸」、「二ノ丸」、「三ノ丸」、山麓にある「山中御殿」、「太鼓壇」、「千畳平」などの大規模な曲輪群(防御施設や生活空間となる城内の平坦地)が残っています。

◆**戦国大名尼子氏**

今からおよそ550年前の室町時代後半には、室町幕府の有力な武将である京極氏が出雲国を治めていました。しかし応仁の乱によって京極氏の力が弱まると、その家来であった尼子氏は独立する動きを見せはじめました。



尼子氏は出雲国内の豪族たちを次々と平定して勢力を拡大していきました。また、当時大きな影響力を持っていた杵築大社(現在の出雲大社)や清水寺などの有力な神社を保護して関係を深め、世間に尼子氏の力を誇示しました。

経久の時代には「雲陽十一州の太守」と呼ばれたともいわれ、周防国(山口県)の戦国大名大内氏と中国地方の覇権を争うほどに勢力を拡大しました。



3 ふるさとの先人を学ぼう

つねひさ まご はるひさ
 経久の孫である晴久の代になると、室町幕府によって出雲・隠岐のほか、伯耆・因幡（鳥取県）、備前（広島県東半部）、備前・備中・美作（岡山県）の八カ国の守護に任命され、さらに当時大内氏を滅ぼして急速に領土を拡大していた毛利元就との戦いに勝利して石見銀山を領有するなど、尼子氏は全盛期を迎えました。

-  **あまごし** : 尼子氏に仕えていた家臣としてよく知られているのが山中鹿介。
-  **あまごし** : ぼくの好きな武将の一人だよ。三日月への祈りは有名だ。

◆三日月の影「山中鹿介」

やまなかしかのすけゆきもり
 山中鹿介幸盛は、先祖代々尼子氏に仕えていた山中家の出身で、健康に不安を抱えていた兄に代わって山中家の主となりました。

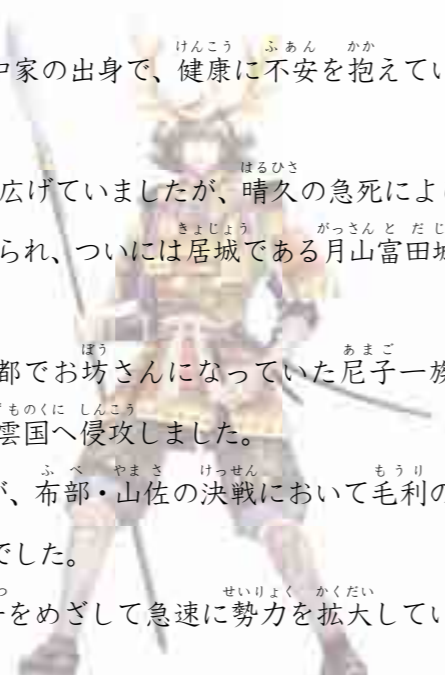
しゆけ
 主家である尼子氏は、その頃毛利氏との戦いを繰り返していましたが、晴久の急死により若くして当主となった尼子義久は毛利氏に対して劣勢を強いられ、ついには居城である月山富田城を明け渡して、尼子氏は滅亡してしまいました。

ろうにん
 浪人となった鹿介は、尼子氏の再興をめざし、京都でお坊さんになっていた尼子一族である尼子勝久を説得して大将とし、軍勢を整えた後再び出雲国へ侵攻しました。

もど
 一度は出雲国の大部分を取り戻した尼子勢でしたが、布部・山佐の決戦において毛利の大軍の前に敗れたため、出雲国から撤退するしかありませんでした。

しな
 しかし鹿介たちはあきらめず、今度は当時天下統一をめざして急速に勢力を拡大していた織田信長の配下に加わって毛利氏に戦いを挑みました。

しえん
 勝久と鹿介たちは、信長の支援を受けて播磨国（兵庫県）の上月城の守備を任せられましたが、毛利の大軍の攻撃を受けて降伏し、勝久は切腹しました。鹿介は捕らえられ、備中松山城（岡山県高梁市）へ護送される途中で暗殺され、その生涯を終えました。



あらエッサくんの ふるさと発見！コーナー



《川中島の一戦》
 毛利元就の出雲侵攻によって富田城が次第に孤立し、毛利方によって完全に包囲された永禄八年（1565年）秋に、鹿介は毛利方の勇敢な武将品川大膳と富田川の中州で一騎打ちを行い、激戦の末に大膳を討ち取ったといわれています。

やまなかしかのすけ かん
 山中鹿介に関する本は、たくさんあります。その中でも、小学生のみんなにもわかりやすい本を紹介しましょう。

《三日月への祈り》
 鹿介は尼子家の復活と出雲国への帰国を目指して尽力し、幾度も毛利氏に戦いを挑みますが、悲願を達成することはできませんでした。鹿介は三日月に向かって「願わくは、我に七難八苦を与えたまえ」と祈ったという伝説があり、これは鹿介の不屈の精神をよく表現した言葉として知られています。



- Let's read!**
- 『ふるさと絵本』（発行：安来市教育委員会）
 - 『山中鹿介』（監修：藤岡 大拙 文：鹿介を子どもたちに伝える会）
 - 『山中鹿介幸盛』（漫画：岩田 廉太郎）

-  **ほくらまごさぶろう** : 社会の時間に勉強したト藏孫三郎は自分の財産をなげうって荒島村の日白池という大きな池を埋め立てて田を作ったり、道路の整備をしたり、十神山に植林をしたんだよね。
-  **あまごし** : 私たちのふるさとの発展につくしてくれた人は他にはどんな人がいるんだろう。

(1) 母里藩の医師 大森家

たいすけ
 大森家第3代泰輔は、生まれたときから画が好きで14才の時に、安来の画家に弟子入りをしました。しかし、家の都合で21才の時から母里藩へ奉公に出ました。そして24歳で医業を志し、上京して医学修行を行いました。28歳になると故郷（大塚町）に戻って開業し、51歳で医者として認められるようになりました。天保4年



「大森三医師生誕の地」碑（大塚町）

さい
 （1833年）、63歳で、当時日本一と言われた和歌山藩の洋医華岡青洲を訪れ、研究に励みました。青洲が行う手術をはじめ、門人が行う診察や手術に立ち会い、新しい医学知識や薬方、医術を習得しました。

むこようし かぜん もりはんい ぼつてき かえい
 婿養子の大森加善は、母里藩医に抜擢され、嘉永6年（1853年）から自宅で医学塾「奇正軒」を開き、明治31年（1898年）まで50人を超える多くの地方医師に華岡流医術（外科手術法）を伝えました。その間、他の医者が見放した「乳岩（乳がん）」などの患者に麻沸湯を用いて手術し、完治させました。

たいすけ さい てんぽう
 大森泰輔が64歳になった天保5年（1834年）に生まれた六四郎は、父や義兄と同じように、華岡流医術を学びました。

えど めいじ はなおかけ
 江戸後期から明治時代にかけて親子三代にわたって華岡家に学んだ大森家は、江戸後期から明治時代にかけて最新の医術（麻酔を使った外科手術など）によって多くの人命を救い、地域医療に大きな役割を果たしました。

(2) 地域の教育に尽くした山村勉斎

山村勉斎は天保7年(1836年)広瀬に生まれました。祖父、父いずれも広瀬藩の儒学教授であった環境の中で育ち、6歳で藩学に入り、13歳になると松江藩明教館へ進みました。25歳の時、儒学教授となりました。28歳の時には、江戸へ行き学問を深めました。



勉斎の墓がある洞光寺

明治になって、藩校はなくなりましたが、勉斎は教育の大切さを説き、今から約150年前、明治7年(1874年)広瀬に、私塾『修文館』をつくり、勉学を志す若者の教育に尽力しました。数十年のうちに島根・鳥取県からの入門者は二千人を越えたとされています。修文館の教育は、厳しいものでしたが、先生と生徒の間はなごやかでした。冬至には、無礼講といって夜遅くまで会食し談笑することもありました。特に生徒



記念銅碑『勉斎山邨先生碑』

たちによる大文字(大きな紙に文字を書いたもの)の催しは、単に習字のためのみではなく、精神修養としての効果も期待して行われ、広瀬町の名物ともなっていました。



勉斎の資料が展示されている
広瀬町名誉町民顕彰館

勉斎は早くに父、南陔を亡くしましたが、母、たかをとても大切にしました。母は大の雷ぎらいで、雷がなると勉斎はどこにいてもすぐにつけ、母のそばに寄り添ったといわれています。かやぶきの家に避雷柱を立てたのもそのためでした。記念銅碑が巖倉寺にあります。



釈迦嶽雲右衛門の等身碑(大塚町)

(3) 大力士 釈迦嶽雲右衛門

雲右衛門は寛延3年(1750年)、大塚で生まれました。本名は天野久富です。

17歳のとき相撲の道に入りました。身体は大きかったのですが、気が優しくよく負けていました。これを知った松江藩主松平不昧公は釈迦嶽に禅の修行をさせました。それが

ら釈迦嶽は猛練習に励むようになりました。そして、見違えるばかり強くなり、ついに関脇、大関となって、大きな体と圧倒的な力で活躍しました。身長227cm、体重180kgとも伝えられる巨体もさることながら、出場した4場所で3度優勝するなど、大関(当時は最高位)に君臨した伝説的な力士です。釈迦嶽はおおいに将来を囑望されましたが安永4年(1775年)27歳で亡くなりました。

彼が生まれ育った大塚町には、多くの逸話が残されています。

《逸話》

雲右衛門は、幼い頃から体が大きな子どもでした。7歳のころのこと、おつかいを頼まれた雲右衛門は、買って帰った豆腐を「ここに置いておくよ」と言って、さっさと遊びにでかけました。しかし、母が玄関に行くと、豆腐はどこにも見あたりません。実は、豆腐は屋根の上に置いてあり、見つけた母はとても驚くのでした。

また、ある日のこと。おなかがすいた雲右衛門は、母におやつをねだると、「お菓子が無いから、ご飯でも食べてなさい」と言われました。そして、夕食時。母がご飯の入ったお櫃をのぞいてまた驚きました。3升(約30合)あったお米が一粒も残ってなかったのです。

《雲右衛門の手形》

稀代の巨人力士と言われる釈迦嶽雲右衛門ですが、その大きさをうかがい知ることができる遺品などが、ふるさと大塚町に残っています。

大森康吉さん宅には、雲右衛門の手形が押された掛け軸が大切に保管されています。手形は、長さ26cm、幅13cmと桁違いの大きさで、手のひらのしわなどもしっかりと残り、力強さが感じられます。雲右衛門が存在した確かな証しであり、地元の英雄として、年月を経ても、なおふるさとに息づいています。(一般公開はされていません)



雲右衛門の手形
(大塚町大塚交流センター)



雲右衛門の弟をはじめ大塚からはたくさんの力士が出ています。他にもいろいろな逸話や、相撲にかかわる碑が大塚にはあります。(碑石には、手形があるものもあります。)調べてみましょう。

(4) 水抜きトンネルを造った原重兵衛

原重兵衛は約150年前、水抜き用のトンネルを作り、安来市赤崎町付近の田を良くしました。

現在は、赤崎町から月坂町にかけて広大な田んぼが整備されていますが、江戸時代末期までは、水害の多い湿田や沼田で、耕作も容易ではありませんでした。



特に赤崎と月坂の境界あたりは水が抜けなくて、稲を作ることがとても難しかったものです。重兵衛は、この水を抜くために、5年の歳月をかけて北面の赤崎山を貫くトンネルを掘り抜きました。この工事は、嘉永4年（1851年）に完成しました。延長55m、高さ・幅とも1.8mの水抜き用トンネルが完成したおかげで50ヘクタールの実りの豊かな穀倉地帯が出現したのです。



トンネル入り口（赤崎町）

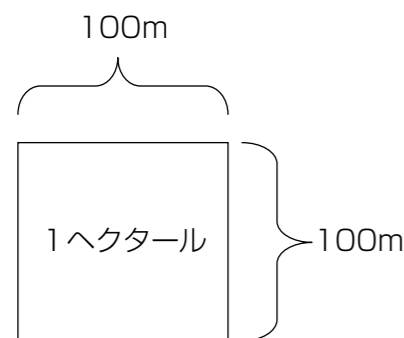


原重兵衛の碑（赤崎町貴布祢神社）

彼の実績は、川堀りだけではありません。農村振興のためにも大いに力を尽くしました。温厚で人情に厚く、仕事に忠実な重兵衛は、明治に入ってから戸長（村長）まで勤めました。



赤い四角：1ヘクタール



50ヘクタールってどのくらいの広さかわかるかな。



(5) 土地開拓に尽くした黒川羽左衛門

羽左衛門は土地開拓の技術に優れていたため、第八代母里藩主、松平直興に召し抱えられました。

そのころ東母里の古市は水が不便だったので土地の大部分が畑として利用されていました。羽左衛門は井尻村から山裾に沿って水路をつくり、ここに2ヘクタールあまりの田んぼをつくりました。しかし、この田んぼは伯太川よりも低かったため排水がうまくいきませんでした。そこで、羽左衛門は亀遊山麓の岩壁を切り抜いて、田地の水が原代の方に流れ出るように工夫しました。今でも岩盤には、そのときののみの跡が残っているとされています。



亀遊山麓の水路予想図（伯太町東母里）

羽左衛門が手がけた最も大きな工事は文化8年（1811



オの峠の切り通しができる前の伯太川予想図（伯太町井尻）

年）から翌年にかけて行われた、「オの峠の切り通し」といわれています。その

ころの伯太川は粟倉から中山を迂回して横屋の方に流れていました。そこでこの中山の根にあたるオの峠を開削して伯太川を直流させ、今まで川が流れていたところを埋め立てて、3ヘクタールあまりの田んぼにしました。岩盤が固く、工事は大変難航しました。また、埋め立てには大量の土が必要で、遠くの山の土を切り崩し、長い水路をつくって流し込み、ようやく完成させました。

羽左衛門が開墾した田んぼは約30ヘクタールを越えたと言われています。



オの峠の切り通し（伯太町発電所近く）



実際にその場所に出かけて、地域の人にインタビューしてみるのもいいね。

このようにたくさんの先人の努力によって私たちの暮らしが支えられてきたんだね



学びを深めよう

今まで紹介してきた本や情報は、以下のところで得ることができます。もっともっと学んだり、調べたりしたい人は行ってみましょう。



◆安来市立図書館 TEL0854-22-2574



「郷土資料」コーナーには、安来市の今や昔に関する資料が集められています。また、子ども図書館の「郷土の本」コーナーには、子ども向けのやさしい読み物があります。学校や地域の図書館にもあるので、探してみましょう。

◆安来市観光協会 TEL0854-23-7667



安来駅の構内に安来市観光協会があります。市内の名所、旧跡に関するパンフレットが置いてあります。また、安来市観光ボランティアガイドも行っています。ホームページからは、様々な情報を得ることができます。

◆道の駅 あらエッサ TEL0854-23-2510



道の駅 情報コーナーでは、楽しい安来弁トークや安来の風景、ふるさと安来の昔話などが放映されています。また、市内の名所、旧跡に関するパンフレットやイベント情報がたくさんあります。

◆安来市立歴史資料館 TEL0854-32-2767



安来市の古代から近世にかけての歴史を「いにしへの安来」「富田城と乱世」「新しい世界へ」の大きく分けて、わかりやすく展示してあります。その他市内には、和鋼博物館、いにしえ横穴学習館、金屋子神社民俗館、安来市立民俗資料館があります。

●資料提供と協力者（順不同）

島根県
松江市
安来市
清水寺
洞光寺
雲樹寺
金屋子神社

●参考にした文献

『広報やすぎ』
『安来市誌』
『広瀬町誌』
『伯太町史』
『母里藩史』
『ウソパくんと歩く中海散歩』
中海市長会
『松江・安来の歴史』
郷土出版
『週刊 日本の合戦 No.33 山中鹿介と月山富田城・上月城の戦い』
講談社
『島根県の人物事典』
『出雲國神仏霊場 HP』
『安来市観光協会 HP』
『中海・宍道湖・大山圏域市長会 HP』

安来ふるさと読本 平成25年3月発行

【編集・発行】
安来市教育委員会
安来市伯太町東母里580

【印刷・製本】
有限会社 太陽平版

